

## 令和6年9月市会 令和5年度決算 賛成討論

2024年11月6日

公明党京都市会議員団 増成竜治(伏見区)

公明党京都市会議員団は、令和5年度一般会計決算をはじめとする各会計の決算を認定するとともに、関連議案について賛成するとの立場を表明しております。私は議員団を代表してその理由を述べ、討論をいたします。

認定する理由の1点目は、令和5年度決算においては令和4年度に続き、特別の財源対策を実施することなく黒字決算になったということであり、市税収入は、対前年度比82億円の増となり、また、ふるさと納税寄付金は、対前年度比5億円の増となるなど、ともに過去最高となりました。これは行財政改革が功を奏したものであり、市民の皆様の御理解と御協力のもとで実施した各種事業の見直し、そして国への的確な経済対策要望と交付税措置によるものと存じます。

認定する理由の2点目は、計画外に取り崩した公債償還基金、いわゆる過去負債を令和5年度は35億円返済し、持続可能な行財政運営に向けて前進したことであります。しかしながら、過去負債の返済残高はいまだ470億円であり、引き続き厳しい財政状況であることに変わりありません。過去負債の解消そして将来世代へ負担を残すことがないように、たゆまず努力し続けることを求めています。

認定する理由の3点目は、令和5年度予算編成要望において、私ども公明党京都市会議員団が求めてきた施策が多く実現されていたことであります。決算特別委員会の局別質疑・総括質疑においても、議員団の要望が幅広く反映され、的確に事業執行されたことが確認できました。

以上3点の理由により、令和5年度一般会計決算をはじめとする各会計の決算について認定いたします。

令和5年度決算は、新型コロナウイルス感染症法の位置付けが5類へと移行され、社会生活が再起動した1年の中での決算となりました。

行財政改革と物価高騰に対し、いのちと暮らしを守るため住民税非課税世帯への給付金の支給や高齢者インフルエンザ予防接種の接種環境の充実等の施策を講じてこられたことを評価いたします。今後も重層的支援を実行性ある制度となるよう全庁横断的に取り組むなど、誰一人取り残さない取組をお願いいたします。

本年は、能登半島地震をはじめ大雨による災害等、多くの災害が多発した年になっています。能登半島地震で改めて浮き彫りとなった災害関連死対策としての避難所の環境改善はもとより、一次避難所の福祉スペースの確保、直接避難所の拡充、広域避難所へのハイリスク者への配慮や移送の円滑化、医療・介護・福祉ケアを受けられる環境整備を求めます。

また、いのちを守る都市基盤防災・減災対策プロジェクトなど、橋梁の補強やのり面改修、河川管理等、市民のいのちに直接かかわる事業において、引き続き遅延なく計画を進めるとともに、北部山間地域を中心に更なる安全対策を求めます。さらに付随して、現場で活躍していただく各土木みどり事務所の強化充実を望みます。

「突き抜ける文化首都・京都」を強く推進するにおいて、京都で育つ子どもたちへ更に本物の文化芸術に触れる機会を充実させるとともに、どこにいても京都らしい文化を感じることでできる生活文化の醸成に努めていただきたい。また古都京都の財産である京町家の保全・継承については経済的負担の軽減など課題解消に向けて更なる工夫を凝らしていただきたいと申し上げておきます。

また、次世代を育むための子ども教育・環境の充実も喫緊の課題であり、多様性が求められる社会にあって「全ての世代の人々が幸せに輝ける社会・京都」の構築を望んでおります。

特に若者・子育て世代の移住定住促進は、全庁あげて取り組む課題と認識しております。住宅政策のみならず、文化・環境・教育の全てを横断的にとらえて施策を推進するとともに「様々な価値観を持つ人が暮らせるまち京都」であるために、中心部・周辺部問わず住んで良かったと言えるまちづくりをお願いいたします。

次に、公共施設の活用にあたっては、市民ニーズや地域の実情によっては国・府とも連携し、より質の高い公共空間の創出に努めていただきたい。また、戦争の危機が増大する世界情勢を鑑みると、戦後80年の節目となる明年は、これまでの延長ではない平和祈念事業の展開を通して、京都から不戦・平和・核廃絶を発信していただきたいと強く求めます。

さらに、京都市ならではの市民の豊かさにつながる成長戦略が極めて重要です。数多くの都市の中から京都を選んでもらう「新規の参入」を促進するためにも、起業家精神の醸成や斬新なイノベーションへの支援を充実すべきと存じます。それが経済全体を底上げして、活性化への好循環を生み出すと確信いたします。

次に公営企業会計について申し述べます。市バス・地下鉄事業については、4年振りの黒字決算となりましたが、物価高騰の影響や企業債残高を抱える問題もあり予断を許さない状況と認識しています。観光混雑解消の対策やインバウンドと市民との共存共栄について、様々に手を打っていただきましたが、今後はこのバランスをどうとっていくかが大切になります。現場の声を重視して見直しや改善に努めていただくことを求めます。

市バスは運転士不足など難局を迎えています。地域の足を守るため民間バス事業者との連携を強化し、難局打開に向けて全力で取り組んでいただきたいことを要望いたします。

次に上下水道事業について申し述べます。計画に基づいた老朽配水管の更新や震災対策、雨水幹線の整備を着実に進められ、同時に安心・安全の水道供給に努められていることを評価いたします。一方で水需要の減少が続く中、経営環境は一層厳しくなっています。

能登半島地震での甚大な被害を見れば、管路や施設の改築や更新は、最も重要な課題であり、現在取り組まれている施設マネジメントの成果を活かし、市民の生命と生活基盤に直結する上下水道の耐震化を強力に進めてください。

以上、令和5年度決算についての評価と課題について申し上げました。

松井市長には私たちの意見を誠実に受け止めていただき、京都市の諸課題に鋭意取り組まれることを期待しております。さて、甚だ遺憾ではありますが昨今京都市職員による不祥事が続いており、市民の信頼を大きく損ねております。今一度松井市長のもと全庁あげて信頼回復に取り組むことを強く要望いたします。

日本全体が人口減少時代に突入し、官民ともあらゆる業界で担い手不足が深刻化している中で、本市としても若い世代が活躍するフレッシュで風通しの良い職場風土に加え、皆で支え合うサポート体制を整備していかなばなりません。

私たち公明党京都市議員団としても、市民の小さな声に耳を傾け、必要な方に必要な支援をお届けし希望に満ちた京都の構築に尽力していくことをお誓い申し上げ、賛成討論といたします。ご清聴ありがとうございました。